

“公害課”を設ける

チツソ 化学工場で初めて 水俣

チツソ水俣工場（北沢保次工場長、三千人）は、一日から同工場安全衛生部に公害課（夏目武夫課長）を新設、積極的に公害予防に乗り出した。

同課はさる七月に発足した工場長の諮問機関の公害予防委員会の事務局としての性格を持ち、総合的な公害問題の調査、資料集めを行ない、関係部門への予防、改善対策の指導、勧告などが目的。

いま工場内のはい煙、ガス、チリ、騒音などの量を調べている

が、これらの調査をまとめ、原因一迎している。確かめた上で、担当の部課を指導することになっている。

同工場をはじめ、新日本化学、チツソ吉野石膏などの各工場などを持つ同市は、公害に対する市民の苦情が多く、市議会内にも公害対策特別委員会を設け、住民の声を聞き、関係工場などに善処方を要望していたが、化学工場で独立した公害課が設けられたのははじめてといわれ、市民は同工場の環境衛生に対する積極的な姿勢を歓迎